

SPECIAL
FEATURE
特集
CHECK IT OUT

① 五輪直前!この**液晶テレビ**を買いなさい!
② ルックス、性格etc. **30代[モテ期]**の特徴とは?

CIRCUS

男のエンビ

唖然!20・30代リアル
残業事情

【蟹工船】再ブームの今、時給換算でわかった過酷な実態

MONTHLY MAGAZINE
8月刊サーカス
創刊4周年記念号
2008 AUG. NUMBER-049
定価**680円**

●独占!すっごくSEXY
谷桃子/山本梓

巻頭大特集
夏に効く!

200%活用ランキング!!

缶ビール・お茶・缶コーヒーから
冷し麺・アイス・栄養食品
爽快エチケット商品まで

福田萌

航空チケット、高速道路代etc.

ここまで
旅費は安くなる!!

密着レポート!
北京五輪「舞台裏」の秘策
サッカー日本代表MF

本田圭佑

CIRCUS COVER MUSE

田中美保

●人生好転のヒント満載

渡辺久信

(西武ライオンズ監督)

高須光聖

×南野陽子

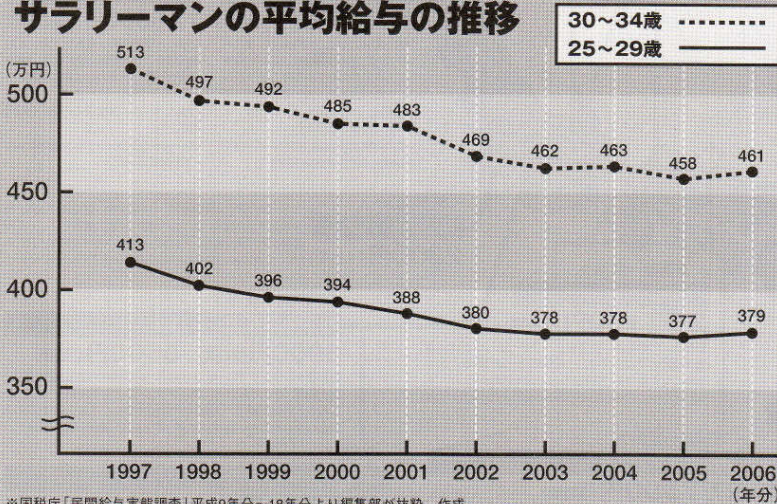
島田裕巳/浅羽通明

激動サラリーマンの生きるヒント



企業の収益は増えているのに 給料が上がらないのはなぜ？

サラリーマンの平均給与の推移



※国税庁「民間給与実態調査」平成9年分～18年分より編集部が抜粋、作成。

利益を上げるために 人件費を削減する

「うちの会社、儲かっているはずなのに、給料が減っているんです。ひどいと思いませんか？」

「実は、給料が下がっているのは、あなたの会社だけではないんですよ。02年から日本の景気は回復しつつあります。しかし、国税庁の調査によると、サラリーマンの平均年収は、97年度から06年度まで10年連続で約32万円も減少しているんです」

「えっ、どうして、そんなことになっているんでしょうか？」

「それはここ十年で、上場企業も中小企業も、利益を重視するようになってきたからです。まず、上場企業の場合、90年代後半以降、持ち合い解消によって、株主の構成が変わってきました。株主が事業会社やメインバンク、取引先企業中心だった頃は、株主への利益還元をあまり考えずに済みましたが、株主が個人や機関投資家、外国人投資家中心となると、株主に利益を還元することが強く



落合孝裕氏

落合会計事務所所長。税理士。東京商工学校で研修・セミナーの講師を務める。著書に「給与明細のカクリと社会のオケテ」(秀和システム)。

求められるようになってきたんです。一方、中小企業の場合、99年、金融検査マニュアルが制定されたことによって、黒字決算の必要性が高まりました。金融検査マニュアルとは、金融庁(当時)の検査官が銀行を審査するときの手引書です。その中には、中小企業にお金を貸し出す際の判断基準が設けられています。金融検査マニュアル制定以前は、赤字でも企業との関係などによっては融資を行なう銀行もありました。ところが、制定後は、利益が出ていない企業に対しては、銀行はお金を貸さなくなりました。影響で低成長期に入っています。また、中国など諸外国との競争も激化しています。特徴のない企業が、売り上げによって利益を上げることができなくなったのはありません。そこではある程度、経費を抑えて利益を出さなくてはいけなくなりました。経費の中で最も多くの割合を占めているのは人件費です。そのため、



上場企業

配当性向(※1)を高めることが企業に期待されるようになる

↓

株主にできるだけ多く還元できるようにしなければならない

人件費(給与)を抑える

のが手取り早いとの結論

企業が利益重視主義に変化

↑

売上げが伸びない今コスト削減が徹底される

中小企業

金融検査マニュアル(※2)が制定される

↓

黒字決算の必要性が高まる

人件費(給与)を抑える

のが手取り早いとの結論

※1 配当性向 利益の中からどれだけ配当として支払っているかを示す指標。パーセンテージで表される。
 ※2 金融検査マニュアル 1999年に公表された、金融庁(当時)の検査官が銀行を審査するときの手引書。これにより、融資の際の審査を企業の「信用格付け」で行なうようになった。

企業は正社員の給料を減らすようにはしたんですよ。例えば、成果主義の導入が挙げられます。企業は社員に成果に応じて給料が上がると説明し、導入に踏み切りました。しかし、ふたを開けてみたら、給料が上がったのは一部の正社員だけ。ほとんどの社員の給料が下がってしまったんです」

「利益を上げることが、人件費削減と同義になっているなんてひどすぎます！

「退職金の規定がない企業も増えてきているんです。労働基準法では、退職金を出すことは義務化されていませんからね」

給料が年々減っていく可能性は大

「もしして、今後またまた私たちの給料は減っていくんでしょっか？」

「実は、給料の厚生年金保険料率は、04年度から08年度までの間に、13・58%から14・99・6%に引き上げられているんです。さらに、17年度まで毎年0・354%ずつ引き上げられ、最終的には18・3%になる予定です。また、ポナスの厚生年金保険料率と健康保険料率も上がりました。03年度から08年度までの間に、厚生年金保険料率は1・0%から14・99%に、健康保険料率は0・8%から8・2%に引き上げられているんです。厚生年金保険料と健康保険料の負担は、会社と個人の折半です。給料もポナスも減って

「年収は下がるし、退職金は出ないかもしれないなんて！ 将来が不安です。」

「でも、あなたは正社員であるだけ幸せですよ。なぜなら、企業は人件費削減のために、正社員の数を減らし、積極的に派遣社員、パートを採用する傾向にあるからです。それはいまの時代、正社員を雇用するのではなく、正社員をあるからです。まず、正社員はなかなかクビにできない上に、定年の時期が延長されるようになりました。また、正社員の場合は、企業が厚生年金保険料と健康保険料を負担してはいけません。しかし、パートの場合は、勤務時間を正社員の4分の3未満にすれば負担する必要はありませんし、派遣社員の場合は、派遣元が負担してくれます」

「いったい、私たちがサラリーマンは、これからどうすればいいんでしょうか？」

「年功序列制度は崩壊しています。外資系企業の場合、能力が高い人は若手でも高い給料を得ています。悲観的に考えるのではなく、プラスに考えるようにしましょう。そのため、まずは肩書にとらわれないで、自分に何ができるのかを考えてみてください。そして、自分の強みを伸ばすようにしましょう。そうすれば、将来、収入の高い職種への転職や独立という道も開けてきます。しかし、会社を辞めるときは、くれぐれも慎重にしてください」

「年収は下がるし、退職金は出ないかもしれないなんて！ 将来が不安です。」

「でも、あなたは正社員であるだけ幸せですよ。なぜなら、企業は人件費削減のために、正社員の数を減らし、積極的に派遣社員、パートを採用する傾向にあるからです。それはいまの時代、正社員を雇用するのではなく、正社員をあるからです。まず、正社員はなかなかクビにできない上に、定年の時期が延長されるようになりました。また、正社員の場合は、企業が厚生年金保険料と健康保険料を負担してはいけません。しかし、パートの場合は、勤務時間を正社員の4分の3未満にすれば負担する必要はありませんし、派遣社員の場合は、派遣元が負担してくれます」

073 CIRCUS-2008-B